

支援プロセス

カリキュラムコーディネータ研修会は、「所属組織のカリキュラムを実際に改善できる人材」を育成することを目的としていますが、研修会で、話を聞いて、ワークを行っても、実際に変革を起こす力は身につきません。カリキュラムコーディネータとしての真の力を身につけるためには実践が必要です。そして、実践を続けるためには、その過程で起こってくる、疑問や不安、時には批判など、様々な課題を乗り越えるために力となる仲間の存在が不可欠です。

研修会参加者に目的を達成していただくため、次のような5段階の成長プロセスをご提供します。

| 成長ステップ | 形態 | 概要 | やること | 備考 |
|----------------------------------|-----------------|---------------------------------|---|--|
| 本研修会の支援範囲 初級編 受講証 | 集合研修 | カリキュラムコーディネータの役割を知り、アクションプランを策定 | ①基本的知識の修得 ②一步を踏み出すアクションプランの策定 ③共に歩む仲間づくり | 研修会を受講することで、参加者に受講証を発行。 |
| 実践編 | 所属組織での実践 | アクションプランに基づく活動 | ①アクションプランに基く所属組織で一步を踏み出す ②カリキュラムコーディネータとしての実践的試行錯誤 | 研修会終了後12ヵ月間のアフターフォロー。 中級編受講までに2年以上の期間が空いて也可 |
| 中級編 認定証 | 集合研修 | カリキュラムコーディネータとしての最低限の資質能力があるか確認 | ①行動結果を持ち寄った相互コミュニケーション ②2~4年の行動計画書の作成 | カリキュラムコーディネータとしての最低限の資質能力があるか測定し、基準をクリアしている人に認定証を発行。 |
| 変革編 | 所属組織での実践 | 体系的なカリキュラムのアセスメント構成に全学的に合意して行動 | ①行動計画の実行 ②カリキュラムコーディネータとしての実践的試行錯誤 | 研修会終了後12ヵ月間のアフターフォロー。 |
| 上級編 エキスパート認定証 | 集合研修+個別コンサルティング | 本当の変革を生み結果に繋げているか確認 | ①成果報告 ②取り組みがうまく行っていない他大学へのアドバイス及び、アドバイス準備を通じた自らの経験への意味づけと体系化 | 所属組織においてカリキュラムのアセスメント構成に合意し、学部・学科等がチームとしてカリキュラム運営に取り組む状態になっているかを確認し、基準をクリアしている場合にエキスパート認定証を発行。 |

参加申し込み

大学・短期大学
最大2名まで

メールに必要事項をご記載の上、申込先メールアドレス宛にお申し込みください。お申込みいただけましたら、申込受付のご返信と合わせて、お振込先をご案内いたします。

| | |
|------------------------|---|
| 必要事項 | <p>① 大学名（所属団体） ② 氏名・部署・役職 ③ ご連絡先（電話/メールアドレス） ④ 懇親会参加の有無 ⑤ 情報を得たいポイント</p> <p>※ 2名参加の場合「氏名・部署・役職」は2名分ご記載ください。 ※ 「情報を得たいポイント」をお送りいただきましたら、できるだけ研修会に反映致します。</p> |
| 申込先 メールアドレス | info@jaedweb.org |
| 参加費 | 1人目 50,000円 2人目 32,500円 |

<含まれるもの> 当日資料代金 / お茶・昼食（お弁当を手配）×2回分

12ヶ月間の研修参加者コミュニティを通じたフォローアップ費用

<含まれないもの> 宿泊費 / 27日朝食 / 懇親会費3000円程度（宿泊は個別にご手配ください）

- いま既にあるカリキュラムから出発する -

カリキュラムコーディネータ養成研修会 <初級編>



～組織がチームとして教育に取組むための仕組み作り～

組織がチームとして学生をどう育てるか議論し、その成果を評価し、教育改善に取り組む。本研修会は、貴校において持続的な教育改善の仕組みを確立していく人材養成を目指します。

■ 開催日程 2019年1月26日土曜日 11:00 から 27日日曜日 15:00まで
■ 場 所 大阪大学 豊中キャンパス
共通教育総合棟 I セミナー室B（2階）

■ 対象者 大学職員（教員も可）

【主催】日本高等教育開発協会【共催】株式会社学びと成長しきみデザイン研究所

本年度より、私立大学等改革総合支援事業でカリキュラムコーディネータの配置が、求められるようになりました。また新たなことをやらなければならなくなつたという声を聞く一方で、これにより学内でのカリキュラムの議論を進めやすくなつたというお声も聞くようになっています。

カリキュラムコーディネータには、どのような知識と、どのような力が求められるのか。本研修会では、「カリキュラムコーディネータ」に求められる基本的な力を、理論と実践事例の両面から学んだうえで、所属組織に戻ってから実施する具体的なアクションプランの整理まで、参加者同士のワークを通して深めてまいります。

所属組織の教育力を高めるため、学部・学科等がチームとしてカリキュラム運営する体制を本気で確立したいとお考えの方はぜひご参加ください。貴学の議論がスタートするきっかけとなれるよう、しっかり準備をしてお待ち申し上げます。

研修会後も続く12ヵ月間のサポートを通じて、カリキュラムコーディネータとしてのトレーニングを重ね、中級編・上級編へと実力を高める本格研修会

このような方が対象です

- カリキュラムコーディネータという役割に、所属組織の教育力を高めるための可能性を感じ、自身がカリキュラムコーディネータになりたいと考えている方。
- 学部・学科等で教育についてもっとしっかりと議論し、学生にとって学びやすく、学修意欲を引き出せる仕組みを作っていくたいと思ってはいるものの、既存のカリキュラムがある中で、どのように議論を組み立てていけばよいか分からぬ方。
- カリキュラムの成果を点検評価し、改善に繋げたいが、何をどこまで行えばよいのか、具体的にイメージできない方。

参加により期待される変化

- 大学のカリキュラム編成の原理を理論的に説明できるようになり、所属組織のカリキュラムの特徴と課題を抽出した上で、解決方法を提案できるようになります。
- 既存のカリキュラムをスタート地点に、学部・学科等がチームとして教育に取り組む体制を確立していく流れをイメージできるようになります。
- カリキュラムの成果をどのように点検評価し、どのように改善に繋げていけばよいか、具体的なイメージを持てるようになります。

日本高等教育開発協会（JAED）

Web: <https://www.jaedweb.org> お問い合わせ先: info@jaedweb.org

初級編の 到達目標

- 大学のカリキュラムの特徴と編成の原理を説明することができる。
- 所属組織のカリキュラムの特徴と課題を抽出することができる。
- カリキュラムマネジメントに関するさまざまな課題解決の方法を提案することができる。

事前課題

- 所属組織のカリキュラムの現状と課題を5分程度で話していただきます。そのための準備をお願いします。関連資料を配付したい方は事前に事務局に提出してください。
- 私立大学等改革総合支援事業のタイプ1の設問項目を1度は事前に確認をし、設問のキーワードが理解できている状態でご参加ください。

講師

佐藤浩章

日本高等教育
開発協会 会長
大阪大学 准教授



中井俊樹

日本高等教育
開発協会 副会長
愛媛大学 教授



桑木康宏

株式会社
学びと成長しくみ
デザイン研究所
代表取締役



プログラム

1日目 ◆ 1月26日土曜日

開場 10:30

オリエンテーション

<共有>

所属組織のカリキュラムの特長と課題

～うちの大学のカリキュラムはここが強み、弱み～

佐藤浩章

参加者間で各組織のカリキュラムの強みと弱みを共有することから本研修が始まります。改めて、自らのカリキュラムを客観化することによって、見えてくる特徴と課題があります。

ランチタイム：班別に交流 <お弁当を準備しています>

<理論編>

大学におけるカリキュラムの特徴

～大学の裁量と制約条件を理解する～

13:00

中井俊樹

大学におけるカリキュラムは、各大学に大きな裁量が与えられています。一方で、実際にカリキュラムを編成するにはさまざまな制約条件があります。大学におけるカリキュラムとその編成方法の特徴を理解します。

<理論編>

カリキュラムの構造と編成原理

～編成における視点と方法を理解する～

14:00

中井俊樹

カリキュラムは、大学の教育理念や教育目的にそって大学教職員が主体的に編成します。大学におけるカリキュラムの構成要素を把握し、カリキュラムを編成するまでのさまざまな視点と方法を理解します。

<実践編>

カリキュラム評価

～今あるカリキュラムから出発する方法～

15:00

佐藤浩章

カリキュラムを設計し直すにはかなりの労力が必要です。より現実的なのは、評価から着手することです。現存するカリキュラムをどのような方法で評価し、その結果をどのようにアクションに繋げるかを理解します。

<実践編>

カリキュラム設計

～構造的に設計して学修成果に繋げる～

16:00

佐藤浩章

評価によって得られたデータを基に、カリキュラムを設計し直す際には、原理にのっとって作業を進め必要があります。特定個人や集団の利害が優先されることがあってはなりません。学生を中心に置き、学修成果を確実にもたらす設計手順を学びます。

- 教育の質保証のために必要とされる個別取組を、一つのシステムとして捉えることができる。
- 所属組織のアセスメントポリシーを作成することができる。
- 大学のカリキュラムに関する多様な考え方や実践事例を尊重し、参加者と共に学びあう文化づくりに貢献できる。

17:00

<演習>

カリキュラム運営を支える基盤

～教育の質保証のための取組を1つのシステムとして機能させる～

桑木康宏

本年度より「教育の質に係る客観的指標」が新設され、「私立大学等改革総合支援事業 タイプ1」の指標が大幅に見直されました。本セッションでは、これらの各指標をカリキュラム運営を支える基盤としてどのように有機的に機能させるかを理解します。

18:00 終了 <希望者は懇親会へ>

2日目 ◆ 1月27日日曜日

開場 9:30

<実践編>

カリキュラムマネジメントの成功事例

～「学内合意の進め方」と「評価・改善の取組」～

10:00

桑木康宏

どう合意を形成し、議論を組み立てると、教員が主体的に関わり易くなり、学部・学科等がチームとして動き始めるのか。本セッションでは、実際に動き始めた大学の事例をご紹介することを通じて、どの大学でも利用できるフレームワークを示します。

11:00

<演習>

カリキュラムの課題解決案を作成する

～カリキュラムコーディネータとしての第一歩～

佐藤浩章

これまで学んだことを踏まえて、学内で何から始めるのか、具体的なアクションプランを作成します。何が課題であり、誰に、いつ、どのような働きかけを行うのか、その成果をどのように確認するのかを考えます。

ランチタイム：班別に交流 <お弁当を準備しています>

13:00

<共有>

カリキュラムの課題解決案の発表と共有

～参加した意味を確認し仲間と約束をする～

佐藤浩章

アクションプランを紙面上に終わらせず、実行に移すためには強い決意と、ともに困難に立ち向かう仲間が必要です。作成したアクションプランを仲間と共有し、いつまでに行動を起こすのかを宣言します。

14:00

<まとめ>

研修を終えて

～振り返りと全体のまとめ～

中井俊樹

2日間の全体の振り返りに加え、裏面「支援プロセス」記載の「研修参加者コミュニティ」について、紹介を行います。